

## 古典的ケース 21. 突然の疝痛に苦しむ青年

24 歳ぐらいの青年が疝痛に襲われた。

疝痛は突然起った。私とその患者を診たとき、彼は落ち着いていた。

しかし、彼に痛みのことを尋ねると彼はわっと泣き出し、痛みは上腹部にあって、差し込むような感覚なのだと答えた。

痛みは発作的にやってきた。

圧迫すると多少好転する。

話を聞いてみると彼はその前日、普段毎日食べていたより 2 枚だけパンを多く食べたと思った。

こんな質問を続けているうちに、痛みが増してきた。

私の最初の処方は Puls. 3x だったが、痛みは軽減されるどころか、あまりに激しくなったため、その青年は半狂乱状態になった。

自分の肉を噛んで髪をかきむしりだした。

最後には近くにいた最も親密で大切な親類を皆、拳で叩きだした。

それは突然の嵐のようだった。

そこで青年に RX を一粒投与した。

すると、5 分もしないうちにまるで変わり、その急な暴力的な嵐は、いわば、静寂に置き換わった。